

漁況予報 い わ し

第198号

【2016年11～12月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は9月は116トンで、前年(248トン)をやや下回り平年^{※1}(67トン)を大きく上回りました。10月は19トン(速報値)で、前年(15トン)および平年^{※1}(19トン)並でした。

まき網は、東京湾側で2トンの漁獲がありましたが、相模湾側ではありませんでした。

魚体は、2ヶ月とも2016年生まれの被鱗体長^{※2}(以下同)12～14cmの0歳魚が主体でしたが、9月中旬以降はウルメイワシに混じる程度となり、散発的な漁模様となりました。

【カタクチイワシ】

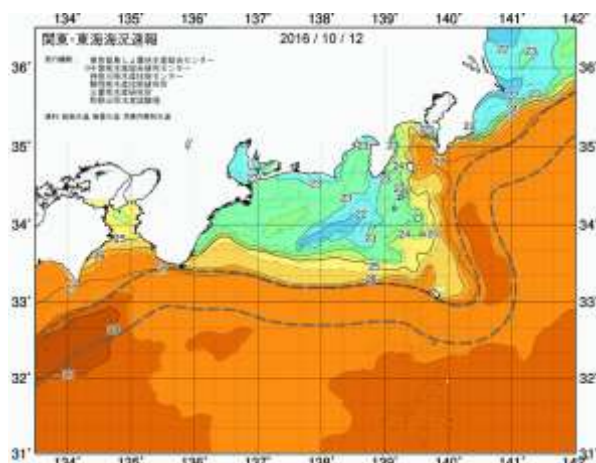
主要定置網における9月のカタクチイワシ総漁獲量は、鎌倉～江の島地区中心に113トンで、前年(22トン)および平年(10トン)を大きく上回りました。続く10月の漁獲量(速報値)も14トンで前年(5kg)および平年(455kg)を大きく上回りました。

鴨居地区のまき網は餌イワシとして散発的に漁獲がありました。

魚体は、2ヶ月とも6～8cm(7cmモード)の未成魚が主体で、9月での100トン超えの漁獲は2006年(157トン)以来となります。

【シラス】

8月の漁獲水準が過去最低となった相模湾のシラス漁ですが、9月に入っても一向に上向かないまま推移し、湾全体での漁獲量(標本船データより推定)は大不漁の前年を上回ったものの、平年を大きく下回りました(前年比1.5倍、平年比0.3倍)。10月に入り、11～12日に発生した大島東水道から湾奥部への黒潮系水の流入により、シラスが来遊した模様で、まず茅ヶ崎以西で200kg/統/日以上となり、藤沢以东でも27日以降同100kg以上の漁獲水準となり、秋シラスの漁期入りとなりました(前年比0.7倍、平年比0.9倍)。



= 予 報 =

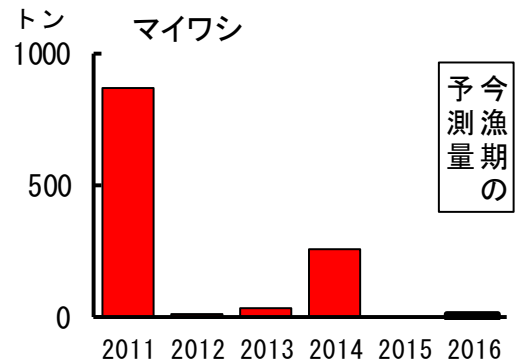
過去5年の11・12月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2016年生まれの小中羽マイワシ（12～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

昨年から、春季のマシラス漁獲量の割には、9月以降のヒラゴ漁獲量が極めて少ない状況にあります。

今漁期の漁獲量は、低調ながら前年を上回る約13トンと予測されます。

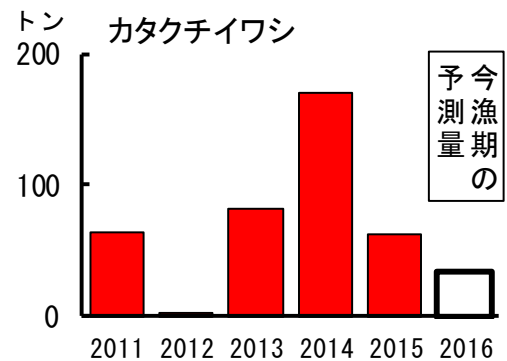


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、2016年生まれの未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

この時期の小型成魚は、夏シラスが成長したものだと思われ、今漁期の漁獲量は、7、8月のカタクチシラスの漁獲状況から、前年を下回る約33トンと予測されます。

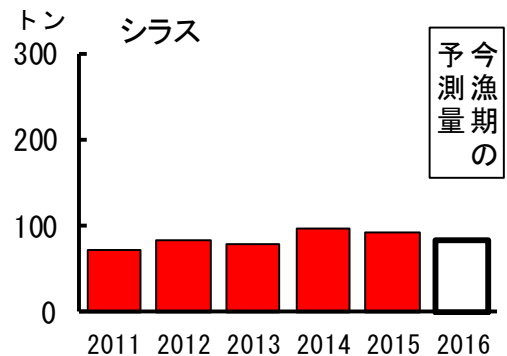


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、カタクチシラス主体に11月はウルメシラスが、12月にはマシラスが僅かに混獲されるでしょう。

今漁期は、グラフからもわかるように100トン未満で横ばい状態がここ数年継続しています。今漁期は約83トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313